

沖縄総合事務局開発建設部事業評価監視委員会議事要旨（平成15年度第2回）

1. 開催日時：平成16年3月3日（水） 10:00～11:45

2. 場 所：沖縄総合事務局 4F 特別会議室

3. 出席者：○委員 上原方成 上原地盤工学研究所主宰  
諸喜田茂充 琉球大学理学部教授  
津嘉山正光 琉球大学工学部教授  
仲里全輝 沖縄県商工会議所連合会常任幹事  
野崎四郎 沖縄国際大学商経学部教授

○総合事務局 山口次長、溝内部長ほか

4. 事務局説明

平成15年度第2回事業評価監視委員会対象事業  
平成15年度沖縄総合事務局事業評価関係適用通達

5. 事業評価監視監視委員会審議

○一般国道58号恩納バイパスに係る事業再評価審議結果

・対応方針（原案）に対して審議を行った結果、「事業継続」で了承された。  
（委員からの主な意見）  
事業の進捗を図られたい。

（審議内容）

（委員）用地取得残り4%の地主の意向は確保されているのか？また、住民の反対運動があるが全体的な返還手続きが進むにつれ住民も納得したのか？

（事務局）住民の反対運動については、日米合同委員会の手続きも経ており従前のような状況ではないといえる。

用地については、当然、任意買収には努めていくが、大学院大学の開学等諸情勢等踏まえ、土地収用等の活用も見据えながら、今後の事業展開を考えていく。

（委員）コスト縮減の点で、地盤は基礎が支持杭なのか？摩擦効果を入れた工法ということか？

（事務局）ライナープレートは地盤の側壁の摩擦を考慮しない工法。今回採用するモルタルライニングは、モルタルと地盤を一体化させ、周面摩擦を考慮できる仕組みとなっている。杭長が半分になるためコスト縮減が期待できる。

（委員）費用対効果において、交通事故減少便益15億円の計算方法を教えて頂きたい。

(事務局) 恩納村５８号現道のように構造上問題がある（分離帯がない等）場合の事故発生率と、恩納バイパスのように構造上問題がない（二車線分離帯がある等）場合の事故発生率があるが、双方を比較すると相対的に事故率の低い道路の交通量が増え、結果トータル事故件数が減少する。それを便益として計上している。

(委員) 海側への赤土流出はなかったか？また、全面供用は何年ごろになるのか？

(事務局) 赤土については、赤土防止条例にもとづき適切に対応している。

完成見込み年度については、二車線暫定供用を平成１８年目標としている。

四車線全面供用については、財政状況を考慮しつつすすめていくため、現時点ではいえない。

(委員) 平成１６年２月付け技術指針（国土交通省技術調査課通知）への対応は、どのようにしていくのか？

(事務局) 技術指針については、次年度以降からの対応となる。今年度審議については、現行で対応。

(委員) 恩納バイパス平成１８年供用までには、新指針の指摘事項が入ってくるため、この点についても十分な対応を要望する。

#### ○一般国道５８号嘉手納バイパスに係る事業再評価審議結果

・対応方針（原案）に対して審議を行った結果、「事業継続」で了承された。

（委員からの主な意見）

事業の進捗を図られたい

（審議内容）

(委員) 事業が嘉手納ロータリー交差点改良事業の進捗によって影響されるという点について、どういう見通しになっているのか？

(事務局) 嘉手納町と事業調整を進める上で、嘉手納バイパスと嘉手納ロータリー交差点改良事業の優先順位として、嘉手納ロータリーを先行する背景があった。ロータリーについては平成１９年完成と目途がついた。本事業についても嘉手納町との調整もほぼ済んだところ。

(委員) 西海岸道路全面供用はいつ頃になるのか？

(委員) 浦添部分の港湾道路（那覇北道路）については、一次中断となっているが？

(事務局) 那覇北道路については、平成１２年一時中断となった。経緯としては、那覇港港湾計画改訂の見通しの不透明さがあった。その後の動きとして、那覇港港湾計画改訂が平成１５年３月実施、今後は計画との調整、地元調整等踏まえながら進めていくことになる。那覇西海岸道路全面供用については、現時点では言えないが、財政状況、関係機関、地元意見の調整をしつつ検討していく。

(委員) 国道５８号、国道３２９号、沖縄自動車道等幹線として縦線は強いが、縦線を結ぶ横線が弱いのではないかと？縦線と横線とのつながりを強化すべきで

はないか？

(事務局) 縦線は主に国主体、横線は主に県主体である。県の幹線道路については、国の補助も入れて事業を進めて、整備に努めているところである。

#### ○一般国道329号 宜野座改良に係る事業再評価審議結果

・対応方針(原案)に対して審議を行った結果、「事業継続」で了承された。  
(委員からの主な意見)  
安全性について、十分な対応を図られたい。

(審議内容)

(委員) 文化財調査が遅れているが、道路事業予算から調査費用を負担し、調査を早めることは出来ないのか？

(事務局) 事業者が原因者となっている場合は通常負担している。ただし、宜野座改良の場合、宜野座村に調査員がいなく、また、県への応援も依頼しているが県自体、調査員が常駐しているわけではなく、人手不足がクリティカルな問題となっている。

(委員) コスト縮減で塗装を溶射方式にしているが、先例が沖縄にあるのか？また、塩害、日射の強い沖縄での効果は立証されているのか？

(事務局) 溶射方式については、実績としてはない。塩害対策については、様々な対策をとっており、効果を経年的に追いながら実績をつくっていくことが重要である。

(委員) 基礎工を杭基礎から直接基礎に変更しているが、直接基礎の安全面について教えて頂きたい。

(事務局) 基礎底面を置換えコンクリートとすることで、若干の地盤改良を行っている。

#### ○一般国道329号 石川バイパスに係る事業再評価審議結果

・対応方針(原案)に対して審議を行った結果、「事業継続」で了承された。  
(委員からの主な意見)  
安全性について、十分な対応を図られたい。

(審議内容)

(委員) 舗装については、透水性なのか？

(事務局) 透水性舗装については、騒音が3dB下がる効果があるということから、原則的には騒音対策の必要性がある密集市街地中心に取り入れているため、石川バイパスへの導入については、沿線状況を考慮しつつ検討することになる。